

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学Ⅴ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	上腕骨骨幹部 上腕骨遠位部骨折骨折 ガレアジ骨折 肘関節部骨折ならび脱臼・軟部組織の疾患について発生機序・好発部位・症状整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。機能解剖を十分に理解する。小テストにて全員60パーセントの得点率を目指す			評価方法			
授業概要	上肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療について症例を交えて学習する。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)作成冊子	使用器材	プロジェクター 人体模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	前腕機能解剖 橈骨骨幹部単独骨折発生機序・症状ほか p290～293						
第2週	ガレアジ骨折 尺骨単独骨折発生機序・症状ほかp293～294モンテギア骨折 前腕両						
第3週	前腕軟部組織・神経損傷その①コンパートメント症候群・正中・橈骨神経障害p299～300						
第4週	前腕軟部組織・神経損傷その②尺骨神経障害p303～304						
第5週	手関節機能解剖 橈骨遠位端部骨折分類その① Colls骨折症状ほかp304～309						
第6週	橈骨遠位端部骨折その② Colls骨折整復・固定p309 実技本						
第7週	橈骨遠位端部骨折その③Smith骨折・骨端線理解・辺縁部骨折p310～312						
第8週	手関節軟部組織損傷・手根骨骨折①舟状骨骨折三角骨骨折p313～314						
第9週	手根骨骨折その②有鉤骨骨折 豆状骨骨折その他p316～318						
第10週	手関節部の脱臼 手根骨の脱臼 手関節の軟部組織損傷p318～324						
第11週	手の機能解剖 中手骨・指の損傷その①ベネット骨折ほかp325～332						
第12週	手・指の脱臼:CM関節脱臼 指の骨折:基節骨骨折 p332～33④						
第13週	指の骨折その②中節骨・末節骨骨折p335～339						
第14週	手・指の脱臼MP・PIP・DIP脱臼p339～344						
第15週	手の軟部組織損傷第1MP関節ステナー損傷 ロッキングフィンガーp345～348デュピイ						
授業外 学習指示等	毎日の復習と小テストに向けて学習する。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学総合Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担 当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	部位別に発生する可能性のある疾患が言え、その発生機序・好発部位・症状整復法・固定法・合併症について理解し記述できる。 練習問題で確実に正解出来る力をつける。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢・体幹の損傷を身体の総合的見地から判断する力をつける。			期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編)作成冊子	使用器材	プロジェクター 身体模型				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	上肢の損傷その1 肩・上腕部						
第2週	上肢の損傷その2 肘・前腕部1						
第3週	上肢の損傷その3 肘前腕部2						
第4週	下肢の損傷その1 骨盤・大腿部						
第5週	下肢の損傷その2 膝・下腿部						
第6週	下肢の損傷その3 足部						
第7週	体幹の損傷その1 頭蓋・肋骨						
第8週	体幹の損傷その2 頸椎・胸椎						
第9週	体幹の損傷その3 腰椎						
第10週	上肢・下肢・頭部・椎体の損傷まとめ						
第11週	復習練習問題no.1(上肢)						
第12週	復習練習問題no.1(上肢・下肢・体幹)						
第13週	復習練習問題no.2(上肢・下肢・体幹)						
第14週	復習練習問題no.2(上肢・下肢・体幹)						
第15週	復習練習問題no.3(上肢・下肢・体幹)						
授業外 学習指示等	前期・後期期の学習内容を反復し目を通す						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	関係法規 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	医療法(概念・病院等施設)について理解する。医療の安全確保について理解する。 健康保険法・国民健康保険法・高齢者の医療に関する法律などを理解し柔道整復師の業務に関する関わりについて理解する。			評価方法 期末試験 100% 小テストにて加減 (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	プリント冊子及び問題集を中心に柔道整復師の業務に係る法律を中心に学習する。						
教科書等	関係法規	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	医療法 (1) 総則 医療提供の理念 インフォームドコンセント						
第2週	病院・診療所の定義						
第3週	医療に関する選択の支援等 情報の提供 広告						
第4週	医療の安全の確保 国の責務 医療安全支援センター 病院等の開設 病床の別 管理						
第5週	助産所の嘱託医師 清潔保持等 病院の法定人員及び施設の基準等 地域医療支援病院の法定施設等 第3節 監督 医療提供体制の確保 医療計画						
第6週	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法 知的障害者福祉法、老人福祉法、障害者自立支援法						
第7週	健康保険法・国民健康保険法・、旧老人保健法、介護保険法						
第8週	個人情報保護に関する法律						
第9週	柔道整復師法 復習						
第10週	柔道整復師施行規則、省令						
第11週	日本国憲法						
第12週	復習プリント(柔道整復師法)						
第13週	復習プリント(関係法規)						
第14週	復習プリント(総合)						
第15週	復習プリント(総合)						
授業外 学習指示等	プリントを中心に復習する。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復実技Ⅳ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術勤務歴15年	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	患者への説明、助手への指示が適切に行える。 各損傷の視診、触診、ROM、徒手検査等を理解し適切に行える。 各損傷の整復、固定、後療法等を理解し適切に行える。			評価方法			
授業概要	上肢・下肢における外傷について整復操作・固定法・検査法の実技を術者役、患者役、助手役と分担して学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・実技編改定第2版	使用器材	整復・固定・検査に必要な各種用具				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	固定⑭足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定)1 P403～						
第2週	固定⑭足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定)2 P403～						
第3週	固定⑮足関節外側靭帯損傷(バスケットウィーブテープ固定とフィギュアエイト・ヒールロックテープ固定)1 P403～						
第4週	固定⑪アキレス腱断裂(クラーメル副子固定)1 P386～						
第5週	固定⑪アキレス腱断裂(クラーメル副子固定)2 P386～						
第6週	固定⑤下腿骨骨幹部骨折1 P309～						
第7週	固定⑤下腿骨骨幹部骨折2 P309～						
第8週	整復実技⑦肘内障1 P241～						
第9週	整復実技⑦肘内障2 P241～						
第10週	整復実技⑧腱板損傷1 P257～						
第11週	整復実技⑨上腕二頭筋長頭腱損傷1 P264～						
第12週	固定④第5指中手骨頸部骨折1 P182～						
第13週	固定⑥肋骨骨折(さらしと厚紙副子固定)1 P417～						
第14週	固定⑥肋骨骨折(さらしと厚紙副子固定)2 P417～						
第15週	固定⑩第2指PIP関節背側脱臼1 P245～						
授業外 学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・実技編改定第2版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学VI	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	小川 勝	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法知識・技能を身につける。			評価方法			
授業概要	下肢の運動器にかかわる外傷および疾患の診断と治療、後療法について学習する。総論として骨・関節、神経・筋肉の機能解剖と病態について復習し、各論として診断法、治療法、検査法についても学習する。(※一部、上肢の部分を含む)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学・理論編改定第6版	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	膝関節部の軟部組織損傷2						
第2週	膝関節部の軟部組織損傷3						
第3週	膝関節部の軟部組織損傷4						
第4週	下腿骨の構造・下腿骨骨折1 P392～						
第5週	下腿骨骨折2						
第6週	下腿部の軟部組織損傷1 P421～						
第7週	下腿部の軟部組織損傷2						
第8週	下腿部の軟部組織損傷3						
第9週	足根骨部の骨折 P432～						
第10週	足関節部の脱臼 P436～						
第11週	足関節部の軟部組織損傷 P436～						
第12週	足根骨の骨折 P444～						
第13週	中足骨・趾骨の骨折、足根部の脱臼と軟部組織損傷 P447～						
第14週	中足趾節関節、趾節間関節の脱臼 P452～						
第15週	足・趾部の軟部組織損傷 P453～						
授業外 学習指示等	授業前の予習として、次回授業予定に対応する柔道整復学・理論編改定第6版の該当する部分の読み込み、および機能解剖などの復習すること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院での施術業務歴14年	担当者	内川 仁美	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.頸部・胸・背部の軟部組織損傷の概念及び症状について理解し、記述も出来る 2.胸部・腰部の骨折・脱臼の診断や治療に関する知識及び技術を習得し、記述も出来る 3.腰部の軟部組織損傷の概念及び症状について理解し、記述も出来る			評価方法 小テスト(2回) 10% 期末試験 90% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	.頸部・胸・背部・腰部の軟部組織損傷の概念及び症状、診断や治療に関して学習する。						
教科書等	柔道整復学(理論編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	頸椎部の神経損傷 外傷性腕神経叢麻痺 (P187)						
第2週	頸椎部の神経損傷 分娩麻痺 副神経麻痺 (P188～190)						
第3週	頸椎部の神経損傷 長胸神経麻痺(P190)						
第4週	胸・背部の損傷 胸・背部の解剖と機能 肋骨・肋軟骨骨折(P191～197)						
第5週	胸・背部の損傷 胸骨骨折(P198～200)						
第6週	胸・背部の損傷 胸椎の骨折(P200～205)						
第7週	胸・背部の損傷 胸椎の脱臼(P205～206)						
第8週	胸・背部の軟部組織損傷 胸肋関節損傷 肋間筋損傷 胸・背部打撲傷(P206～210)						
第9週	腰部の軟部組織損傷 腰椎骨折 腰椎脱臼 (P210～215)						
第10週	腰部の軟部組織損傷 脊椎分離症 脊椎分離すべり症 変性すべり症 側弯症 (P216～219)						
第11週	腰部の軟部組織損傷 変形性脊椎症 (P219)						
第12週	腰部の軟部組織損傷 腰部脊柱管狭窄症 (P219)						
第13週	腰部の軟部組織損傷 腰椎椎間板ヘルニア (P219)						
第14週	腰部の軟部組織損傷 強直性脊椎炎 (P219)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習:授業を受ける前に教科書を熟読しておく。復習:3～4週間おきに、小テストを実行し、自宅学習する習慣を身につける。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	施術業務経験:内川14年、小川15年	担当者	内川 仁美 小川 勝	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床所見から判断して、施術に摘する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけ、また、医用画像も理解できる。			評価方法			
授業概要	前半:外傷に類似した症状を示す疾患の判別や外傷に潜んでいる危険を学習する。 後半:超音波画像診断の理解を念頭に、医用画像機器の特性や判断における要点について学習する。(超音波診断装置を用いて実習も行う。)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	施術の適応と医療画像の理解	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	柔道整復術の適否を考える・損傷に類似した症状を示す疾患(P1~P21)						
第2週	血流障害を伴う損傷・末梢神経損傷を伴う損傷(P22~P36)						
第3週	脱臼骨折・外出血を伴う出血(P37~P48)						
第4週	病的脱臼および脱臼・意識障害を伴う損傷(P49~P57)						
第5週	脊髄症状のある損傷(P59~P66)						
第6週	呼吸運動障害を伴う損傷(P67~P72)						
第7週	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷(P73~P81)						
第8週	医用画像の理解 医用画像とは 放射線の概要 X線発生装置の概要(P83~P85)						
第9週	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法 その1(P86~P94)						
第10週	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法 その2(P95~P104)						
第11週	医用画像の理解 磁気共鳴装置の概要(P113~P121) X線CTの概要(P105~P113)						
第12週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要1(P122~P132)						
第13週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要2(P122~P132)						
第14週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要3(P122~P132)						
第15週	医用画像の理解 核医学検査の概要(P132~P137)						
授業外 学習指示等	復習の仕方の指導を行い、実行させる						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	講道館柔道4段保有	担当者	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	相手との稽古などを通して身体や精神を鍛練修養し、自己完成して、礼法を通して相手を尊重する事を学ぶことを目標とする。			評価方法			
授業概要	柔道整復師の根元である柔道の礼法、基本的技術を学ぶことを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	嘉納治五郎師範について 武道と柔道について						
第2週	指導者の責任と安全配慮義務						
第3週	柔道における事故要因と発生のメカニズム 事故や怪我を未然に防ぐ為には						
第4週	柔道着の扱い方 柔道に必要な体操とストレッチ						
第5週	礼法(立礼、坐礼)						
第6週	坐位からの後ろ受け身、横受け身 今後、毎回受け身を行う。						
第7週	前受け身、中腰からの受け身						
第8週	姿勢と組み方、進退動作						
第9週	組んでからの前回り受け身、横受け身、後ろ受け身、						
第10週	崩しと体さばき、足を払われての受け身						
第11週	腰に乗せての受け身、固め技の基本動作						
第12週	固め技の防御に必要な基本動作						
第13週	袈裟固め、横四方固め、縦四方固め						
第14週	小内刈り、大内刈り、小外刈り						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業だけではなく、柔道整復師と柔道との繋がりを通して、「道」を追求して欲しい。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	講道館柔道4段保有	担当者	山崎 和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	自己能力等に応じて新しい技を身に付けて、柔道の楽しさを知るようになる事。			評価方法			
授業概要	投げ技と関連付けて基本動作と技の系統を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道の授業づくり(体育シリーズ)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	立ち技からの受け身の練習 小内刈り、大内刈り 毎回打ち込み ↓						
第2週	立ち技からの受け身の練習 小外刈り、出足払い						
第3週	固め技(絞め技)十字絞め、送り襟絞め						
第4週	固め技、攻撃の仕方						
第5週	投げ技 大腰 体落とし						
第6週	背負い投げ 釣り込み腰 受け身練習の為の無理のない投げ込みを毎回する。						
第7週	払い腰 膝車						
第8週	支え釣り込み足 大外刈り						
第9週	大内刈り 小内刈り 出足払い						
第10週	内股						
第11週	浮き腰 肩車						
第12週	技の連絡						
第13週	体さばきで投げる						
第14週	体さばきから投げ技に発展する						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	怪我には注意を払い、柔道を通して学力観を身に付けて欲しい。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	柔道整復実技Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在整骨院を開設運営	担当者	石橋 徹	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	Colles骨折の診察及び固定を指定された時間内に正しくできる。 肩鎖関節・肩関節・肘関節脱臼の診察と整復並び固定を指定された時間内に正しくできる。前期学習した内容を復習し同様にできる。			評価方法			
授業概要	遭遇する可能性の高い外傷を中心に、各損傷の理解をより深める為、整復操作・固定法・検査法の実技を行う。			口述試験と実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、骨模型 固定具等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	Colles骨折(診察及び整復法)1						
第2週	Colles骨折(固定法)1※固定具の作成を含む						
第3週	Colles骨折(固定法)2						
第4週	肩鎖関節脱臼(診察及び整復法)						
第5週	肩鎖関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第6週	肩関節脱臼(診察及び整復法)						
第7週	肩関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第8週	肩関節脱臼(固定法)2						
第9週	肘関節脱臼(診察及び整復法)						
第10週	肘関節脱臼(固定法)1※固定具の作成を含む						
第11週	肘関節脱臼(固定法)2						
第12週	復習(鎖骨骨折 鎖骨脱臼 上腕骨骨折)						
第13週	復習(Colles骨折 肩関節脱臼 肘関節脱臼)						
第14週	復習(全般)						
第15週	復習(全般)						
授業外 学習指示等	空き時間を利用して互いに練習する。繰り返しが重要である。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	生理学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1年生次に学んだ生理学(内分泌系の機能、生殖、骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学)の理解をより深め、演習による知識の定着により、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	人体の生理機能を明らかにし、その機能がどのような機序で現れるかを理解し、柔道整復師として必要な生理学の基礎知識(内分泌系の機能、生殖、骨の生理学、神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	生理学、配布資料	使用器材	パソコン、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第9章 内分泌系の機能 まとめ、演習 A: 内分泌線 B: ホルモン的一般的特質 C: ホルモンの種類と作用 D: 視床下部のホルモン E: 下垂体ホルモン F: 甲状腺のホルモン						
第2週	G: 副腎皮質のホルモン H: 副腎髄質のホルモン I: 膵臓のホルモン J: 精巣のホルモン K: 卵巣のホルモン						
第3週	第10章 生殖 まとめ、演習						
第4週	第11章 骨の生理学 まとめ、演習						
第5週	第13章 神経の基本的機能 まとめ、演習						
第6週	第14章 神経系の機能 まとめ、演習 A: 神経系の成り立ち B: 内臓機能の調節						
第7週	C: 内臓機能の視床下部による調節						
第8週	D: 姿勢と運動の調節						
第9週	E: 高次機能						
第10週	第15章 筋肉の機能 まとめ、演習 A: 筋肉の種類と特徴 B: 骨格筋の構造 C: 筋収縮の仕組み D: 筋細胞膜を興奮させるしくみ						
第11週	E: 骨格筋の収縮の仕方 F: 筋肉の長さや張力との関係 G: 筋収縮のエネルギー H: 筋の熱発生 I: 筋電図 J: 平滑筋 K: 心筋						
第12週	第16章 感覚の生理学 まとめ、演習 A: 感覚の種類 B: 感覚の一般的性質 C: 体性感覚 D: 内臓感覚						
第13週	E: 嗅覚と味覚 G: 視覚						
第14週	F: 聴覚 H: 前庭感覚						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。 毎回の講義で配布する小テストの問題はすべて解けるように復習する。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	病理学概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	脇田 真仁	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	・講義内容(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の理解。 ・講義毎の小テストをすべて解けるようにし、着実に国家試験に備える。			評価方法			
授業概要	柔道整復師として必要な病理学の基礎知識(細胞傷害・循環障害・進行性病変・炎症・免疫異常・アレルギー・腫瘍・先天性異常・病因)の修得を目指す。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	病理学概論 配布資料	使用器材	パソコン 液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第7章. 免疫異常・アレルギー(1)(C自己免疫疾患、Dアレルギー)						
第2週	第7章. 免疫異常・アレルギー まとめ・演習						
第3週	第8章. 腫瘍(1)(A腫瘍の概念(生体への影響まで))						
第4週	第8章. 腫瘍(2)(A腫瘍の概念(発癌の原因から))						
第5週	第8章. 腫瘍(1、2) まとめ・演習						
第6週	第8章. 腫瘍(3)(B腫瘍の分類)						
第7週	第8章. 腫瘍(3) まとめ・演習						
第8週	第9章. 先天性異常						
第9週	第9章. 先天性異常 まとめ・演習						
第10週	第10章. 病因(1)(A病因の一般、B内因)						
第11週	第10章. 病因(1) まとめ・演習						
第12週	第10章. 病因(2)(C外因(栄養障害、物理的外因))						
第13週	第10章. 病因(3)(C外因(化学的外因、生物学的外因))						
第14週	第10章. 病因(2) まとめ・演習						
第15週	第7章～第10章 まとめ						
授業外 学習指示等	授業を受ける前の予習として、教科書を熟読しておく。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	一般臨床医学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当者	待鳥 浩信	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	柔道整復師は患者を診察し、「施術所で治療するのか」、「医療機関への受診勧奨をするのか」の判断を常に求められる。このため、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を身につける。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を身につける。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床医学・配布資料	使用器材	PC(PCプロジェクター)				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	感染症①						
第2週	感染症②						
第3週	感染症③						
第4週	呼吸器 (総論と疾患)						
第5週	循環器 (総論と疾患)						
第6週	消化器 (総論と疾患)						
第7週	肝胆膵 (総論と疾患)						
第8週	代謝 (総論と疾患)						
第9週	内分泌 (総論と疾患)						
第10週	血液 (総論と疾患)						
第11週	腎・尿路 (総論と疾患)						
第12週	神経 (総論と疾患)						
第13週	膠原病・アレルギー (総論と疾患)						
第14週	まとめ						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	運動学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・診療所勤務歴12年	担当者	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 運動器の構造について説明することができる。 2 正常な身体運動の機能を理解することができる。 3 疾病等による異常な運動を述べるることができる。			評価方法			
授業概要	人間の運動に関わる身体の機能と構造について基本的な知識を備えるために、正常な構造と機能について学修する。とくに、骨・関節・筋の構造と機能に重きをおいた講義を展開する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	斎藤宏・鴨下博:運動学、医歯薬出版	使用器材	配布資料、視聴覚教材等				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	四肢と体幹の運動(股関節の運動) (P114~124)						
第2週	四肢と体幹の運動(膝関節の運動) (P125~137)						
第3週	四肢と体幹の運動(足関節と足部の運動) (P138~147)						
第4週	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動) (P148~153)						
第5週	四肢と体幹の運動(体幹と脊柱の運動) (P148~154)						
第6週	四肢と体幹の運動(頸椎の運動) (P155~166)						
第7週	中間まとめ						
第8週	四肢と体幹の運動(胸椎と胸郭の運動) (P167~172)						
第9週	四肢と体幹の運動(腰椎と仙椎および骨盤の運動、顔面および頭部の運動) (P173~183)						
第10週	姿勢(姿勢の分類、重心、立位姿勢、立位姿勢の制御) (P184~188)						
第11週	歩行(歩行周期、歩行の運動学的分析) (P189~193)						
第12週	歩行(歩行の運動力学的分析、歩行時の筋活動、歩行のエネルギー代謝) (P194~199)						
第13週	歩行(走行、異常歩行) (P200~206)						
第14週	運動発達と運動学習 (P207~230)						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	解剖学Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当者	手塚 誠	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	解剖学の全ての確認復習ができ、国家試験問題が解けるようになる。			評価方法			
授業概要	人体の構造と機能を学び、柔道整復師になるための基礎学力と応用力をつけることを目的とする。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、図解解剖学辞典、配布資料	使用器材	OHP、白板				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	内臓系① (確認プリント・演習問題)						
第2週	内臓系② (確認プリント・演習問題)						
第3週	内臓系③ (確認プリント・演習問題)						
第4週	内分泌系① (確認プリント・演習問題)						
第5週	内分泌系② (確認プリント・演習問題)						
第6週	脈管系① (確認プリント・演習問題)						
第7週	脈管系② (確認プリント・演習問題)						
第8週	神経系① (確認プリント・演習問題)						
第9週	神経系② (確認プリント・演習問題)						
第10週	神経系③ (確認プリント・演習問題)						
第11週	感覚器系① (確認プリント・演習問題)						
第12週	感覚器系② (確認プリント・演習問題)						
第13週	体表解剖系① (確認プリント・演習問題)						
第14週	体表解剖系② (確認プリント・演習問題)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	時間がある時は、国試の過去問を解いたりすることで、自分の力がどれくらいついているかを確認し、足りていない部分は復習をしっかりと行うようにして下さい。						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	整形外科学 I	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(整形外科クリニック院長)	担当者	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 整形外科を学ぶに当たっての基礎知識を習得する 2 骨及び周囲組織の基礎解剖の確認 3 基本的な治療、検査法を理解する 4 外傷についての基礎知識を身につける			評価方法			
授業概要	整形外科学は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。運動療法を行う上で、必要な整形外科の知識と理解の再確認を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科学	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	骨 基本知識 働き、構造、代謝等						
第2週	関節、筋及び靭帯 基礎解剖 役割等						
第3週	整形外科的診察法 基本的診察法 他覚的症状の評価等						
第4週	検査法 ① X線撮影 CT MRI 関節造影等						
第5週	検査法 ② 骨密度 電気生理学的検査 関節鏡検査等						
第6週	整形外科的治療法 ① 保存療法 ギプス 牽引療法等						
第7週	整形外科的治療法 ② 観血的治療法						
第8週	骨折総論 ① 定義 合併症 治療法 等						
第9週	骨折総論 ② 小児骨折の特徴 開放骨折						
第10週	骨折総論 ③ 疲労骨折 病的骨折 偽関節 等						
第11週	関節の損傷 捻挫 脱臼 等						
第12週	スポーツ整形外科総論						
第13週	リハビリ総論						
第14週	まとめ1						
第15週	まとめ2						
授業外 学習指示等	基本的な整形外科的単語を理解して授業に挑むこと						

令和4年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 2年	科目名	臨床実習	授業時期	前・後期	授業時数	90
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験	担当者	小川 勝	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法 実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。						
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
②第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
②第2週							
②第3週							
②第4週							
②第5週							
②第6週							
③第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
③第2週							
③第3週							
③第4週							
③第5週							
③第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること						